

農林水産商工常任委員会資料

(令和5年11月30日)

項 目	ページ
■ 株式会社グッドスマイルカンパニーの倉吉市内への第二工場新設に係る協定書調印式の実施について 【立地戦略課】……………	2
■ 株式会社源吉兆庵の県内三拠点目となる新工場建設に係る協定書調印式の実施について 【立地戦略課】……………	4
■ 第12回北東アジア産業技術フォーラムの開催結果について 【産業未来創造課】……………	6
■ 経済対策等に係る商工団体・金融機関等との情報連絡会議の開催結果について 【企業支援課】……………	7
■ 「鳥取県雇用人材局メールサービス」からの個人情報の流出について 【雇用・働き方政策課】……………	8
■ 第43回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）での受賞について 【雇用・働き方政策課】……………	9
■ 技能関係表彰及び鳥取県技能祭の開催について 【産業人材課】……………	10
■ 令和5年度鳥取県スーパー工業士認定証授与式の開催結果について 【産業人材課】……………	12

商 工 労 働 部

株式会社グッドスマイルカンパニーの倉吉市内への第二工場新設に係る 協定書調印式の実施について

令和5年11月30日
立地戦略課

株式会社グッドスマイルカンパニー（本社：東京都千代田区）が、フィギュア需要の増加や海外での生産リスク等を背景に国内の生産拠点強化を図るため倉吉市内へ国内二拠点目となる新たな製造工場を設置することとなり、これを支援する鳥取県及び倉吉市との間で次のとおり調印式を実施しました。

1 企業概要

- (1) 名称 株式会社グッドスマイルカンパニー
- (2) 所在地 東京都千代田区外神田三丁目16番12号アキバCOビル
- (3) 代表者 代表取締役社長 安藝 貴範（あき たかのり）
- (4) 設立 平成13年5月
- (5) 資本金 300万円
- (6) 売上高 524億円（令和4年9月末）
- (7) 従業員数 約200名
- (8) 事業内容 玩具、フィギュア、グッズの企画、開発、製造、販売、ゲーム企画 等

2 投資計画概要

- (1) 立地場所 鳥取県倉吉市河北町125番地
土地：約7,581.74㎡ 工場：延べ3,351.11㎡（鉄骨造2階建）※倉吉市が貸工場を整備
- (2) 名称 株式会社グッドスマイルカンパニー第二楽月工場
- (3) 総投資額 約2.5億円 ※倉吉市の貸工場整備は除く
- (4) 雇用計画 約210名程度（3年計画）
- (5) 操業開始 令和7年春頃（予定）
- (6) 事業内容 フィギュアの製造・開発 等



倉吉市河北125番地(工場立地箇所)



新工場イメージ

3 県の支援（予定）

- ・鳥取県産業未来共創補助金（一般投資型）約2,500万円 ※投資終了後、実績に基づいて交付予定
[内訳]設備投資約2.5億円×10%
 - ・先端的デジタル活用企業立地促進補助金 約5,000万円
[内訳]貸工場賃借料1,000万円/年×5年
- ※上記のほか、倉吉市の貸工場整備に対して工業団地整備支援補助金により約1億円(補助率1/2)支援予定。(9月補正)

4 調印式

- (1) 日時 令和5年11月8日（水）午後1時から1時30分
- (2) 場所 株式会社グッドスマイルカンパニー本社
- (3) 出席者 株式会社グッドスマイルカンパニー

	代表取締役社長	安藝 貴範
倉吉市	市長	広田 一恭
鳥取県	知事	平井 伸治



協 定 書

株式会社グッドスマイルカンパニー（以下「甲」という。）、鳥取県（以下「乙」という。）、倉吉市（以下「丙」という。）は、甲の国内の生産拠点強化に向けた倉吉市内への第二工場新設（以下「新設事業」という。）について次のとおり協定する。

第1条 甲は、別紙1のとおり新設事業を行い、操業するものとする。

第2条 乙及び丙は、前条に定める新設事業が支障なく円滑に行われるよう、誠意をもって協力するものとする。

第3条 甲は、新設事業及び操業に当たり、法令等の規定を遵守し、公害の発生防止と周辺環境の保全に努めるものとする。

第4条 甲は、従業員の採用に当たっては、鳥取県内在住者及び鳥取県内へのI J Uターン者の積極的な採用及び倉吉市内への定住に努めるものとする。

2 乙及び丙は、甲の人材確保に当たっては、誠意をもって協力するものとする。

第5条 甲は、事業実施に当たっては、鳥取県産業振興条例（平成23年鳥取県条例第68号）の趣旨を踏まえ、鳥取県内企業との積極的な取引及び協業の推進に努めるものとする。

第6条 甲が別紙1のとおり新設事業及び操業することに対し、乙及び丙は、別紙2に掲げる支援を行うものとする。

第7条 甲、乙及び丙は、この協定に定める事業を実施する上で知り得た他の当事者の営業、人事、技術その他の業務上の機密（以下、総称して「機密情報」という。）を保持するものとし、第三者に開示し、又は漏えいしてはならない。ただし、機密情報を開示しようとする者があらかじめ書面により当該機密情報を保有する他の当事者の同意を得た場合は、この限りでない。

第8条 この協定に定める事項について疑義が生じたとき、及びこの協定に定めのない事項については、甲、乙及び丙が協議して定めるものとする。

上記のとおり協定した証として、本書3通を作成し、甲、乙及び丙がそれぞれ署名の上、各自その1通を保有し、信義を重んじ誠実にこの協定を履行するものとする。

令和5年11月8日

甲 東京都千代田区外神田三丁目16番12号アキバC0ビル
株式会社グッドスマイルカンパニー
代表取締役社長

乙 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地
鳥取県
鳥取県知事

丙 鳥取県倉吉市葵町722番地
倉吉市
倉吉市長

（別紙1）計画概要

1 事業所の名称	株式会社グッドスマイルカンパニー第二楽月工場（仮称）
2 所在地	倉吉市河北町125番地
3 事業開始	令和7年春頃（予定）
4 事業内容	国内の生産拠点強化に向けた倉吉市内への第二工場新設
5 雇用計画	210名程度採用予定（3年間）

（別紙2）

- 鳥取県の支援
鳥取県産業未来共創条例（令和5年鳥取県条例第37号）に基づく支援
- 倉吉市の支援
倉吉市企業立地促進事業助成規則（平成26年倉吉市規則第2号）に基づく支援
事業用賃貸工場の整備及び甲への貸与（賃借料等の諸条件については別途契約による）

株式会社源吉兆庵の県内三拠点目となる新工場建設に係る 協定書調印式の実施について

令和5年11月30日
立地戦略課

株式会社源吉兆庵（本社：岡山市）が、果実入りヨーグルトをはじめとした乳製品や季節の和洋菓子等の生産体制を強化するため、県内三拠点目となる新たな工場を設置することとなり、これを支援する鳥取県及び米子市との間で次のとおり調印式を実施しました。

1 企業概要

- (1) 名称 株式会社源吉兆庵（源吉兆庵グループ）
- (2) 所在地 岡山県岡山市北区幸町7-28
- (3) 代表者 代表取締役 岡田 憲明（おかだ けんめい）
- (4) 資本金 9,800万円
- (5) 売上高 約335億円（グループ全体）
- (6) 従業員数 約2,419名（2023年8月現在、グループ全体）
- (7) 事業内容 和洋菓子、乳製品等 製造・販売
- (8) 製造工場 藤田工場、妹尾工場、東岡山工場、築港工場（岡山市）
愛媛宇和島工場（宇和島市）
鳥取・米子大山工場（米子市）、鳥取工場（鳥取市）

2 投資計画概要

- (1) 立地場所 鳥取県米子市赤井手 米子インター西産業用地内
敷地面積 約22,437㎡、延床面積 約5,382㎡（鉄骨造2階建）
- (2) 名称 株式会社源吉兆庵 米子新工場（仮称）
- (3) 総投資額 約28億円
- (4) 雇用計画 約70名
- (5) 操業開始 令和8年春頃（予定）
- (6) 事業内容 ヨーグルトとヨーグルトをはじめとした生乳加工品を原料とした菓子製造 等
- (7) その他 直売所・カフェ施設を併設予定（産業未来共創補助金（一般投資型）の補助対象外）

3 県の支援（予定）

- ・鳥取県産業未来共創補助金（一般投資型）約4億2,000万円 ※投資終了後、実績に基づいて交付予定。
[内訳]設備投資約28億円×補助率15%（基本補助率10%+土地・建物取得加算5%）
〔上記のほか、米子市が行う米子インター西産業用地（(株)源吉兆庵などが立地予定）の整備に対して、工業団地整備支援補助金により総額約4億円（補助率1/2）支援予定。※整備完了後、実績に基づいて交付予定。〕

4 調印式

- (1) 日時 令和5年11月29日（水）午後4時10分から4時40分
- (2) 場所 ANAクラウンプラザホテル米子 琥珀鳥の間
- (3) 出席者 株式会社源吉兆庵 代表取締役 岡田 憲明（おかだ けんめい）
米子市 市長 伊木 隆司
鳥取県 知事 平井 伸治



協 定 書

株式会社源吉兆庵（以下「甲」という。）、鳥取県（以下「乙」という。）及び米子市（以下「丙」という。）は、甲の乳製品等の増産に伴う米子市内への新工場建設（以下「新設事業」という。）について次のとおり協定する。

第1条 甲は、別紙1のとおり新設事業を行うものとする。

第2条 乙及び丙は、前条に定める新設事業が支障なく円滑に行われるよう、誠意をもって協力するものとする。

第3条 甲は、新設事業にあたり、法令等の規定を遵守し、特に工場の設置、運営等に当たっては、公害の発生防止と周辺環境の保全に努めるものとする。

第4条 甲は、従業員の採用に当たっては、米子市在住者を中心として、鳥取県内在住者及び鳥取県内へのI J Uターン者の積極的な採用に努めるものとする。

2 乙及び丙は、甲の人材確保に当たっては、誠意をもって協力するものとする。

第5条 甲は、事業実施に当たっては、鳥取県産業振興条例（平成23年鳥取県条例第68号）の趣旨を踏まえ、鳥取県内企業との積極的な取引及び協業の推進に努めるものとする。

第6条 甲が別紙1のとおり行う新設事業に対し、乙及び丙は、別紙2に掲げる支援を行うものとする。

第7条 甲、乙及び丙は、この協定に定める事業を実施する上で知り得た他の当事者の営業、人事、技術その他の業務上の機密（以下、総称して「機密情報」という。）を保持するものとし、第三者に開示し、又は漏えいしてはならない。ただし、機密情報を開示しようとする者があらかじめ書面により当該機密情報を保有する他の当事者の同意を得た場合は、この限りでない。

第8条 この協定に定める事項について疑義が生じたとき、及びこの協定に定めのない事項については、甲、乙及び丙が協議して定めるものとする。

上記のとおり協定した証として、本書3通を作成し、甲、乙及び丙がそれぞれ署名の上、各自その1通を保有し、信義を重んじ誠実にこの協定を履行するものとする。

令和5年11月29日

甲 岡山県岡山市北区幸町7番28号
株式会社源吉兆庵
代表取締役

乙 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地
鳥取県
鳥取県知事

丙 鳥取県米子市加茂町一丁目1番地
米子市
米子市長

（別紙1）計画概要

- | | |
|----------|---|
| 1 事業所の名称 | 株式会社源吉兆庵 米子新工場（仮称） |
| 2 所在地 | 鳥取県米子市赤井手 米子インター西産業用地内 |
| 3 事業開始 | 令和8年春頃（予定） |
| 4 事業内容 | 米子市内における乳製品（ヨーグルト製品等）及び和洋菓子等の増産に伴う新工場建設 |
| 5 雇用計画 | 70名程度採用予定 |

（別紙2）

- 鳥取県の支援
鳥取県産業未来共創条例（令和5年鳥取県条例第37号）に基づく支援
- 米子市の支援
米子市企業立地促進補助金交付要綱（平成17年3月31日制定）に基づく支援

第12回北東アジア産業技術フォーラムの開催結果について

令和5年11月30日
産業未来創造課

北東アジア地域における産業技術分野の交流を促進するため、中国吉林省、韓国江原特別自治道、本県の行政関係者及び研究者が一堂に集まり、各地域の産業振興に関する施策と産業技術開発の研究成果等の発表を行う「第12回北東アジア産業技術フォーラム」を下記のとおり開催しました。

なお、本フォーラムは、平成20年に江原道で第1回目を開催して以来、各地域で持ち回り開催をしており、鳥取県で開催するのは令和元年以来、4回目となりました。

1 第12回北東アジア産業技術フォーラムの概要

- (1) 開催日時 令和5年10月26日(木) 13:00～16:00
- (2) 開催場所 米子コンベンションセンター国際会議室(米子市末広町294)
- (3) 参加者 約30名(吉林省4名、江原特別自治道6名、県内の行政・研究機関等)
- (4) 内容

【基調講演】各地域の産業・技術動向と施策等を紹介(吉林省、江原特別自治道、鳥取県)

【研究発表】テーマ：「地域特性を活かした次世代産業の創出」

<吉林省>「高麗人参の質の高い発展技術体系の構築」他1件

<江原特別自治道>「江原道の特性を活かしたグリーンバイオ産業育成事例」他1件

<鳥取県発表内容 2件>

- ・「水素サプライチェーンWGの取組」
発表者 鳥取ガス株式会社 取締役 竹中 淳 氏
- ・「染色体研究から創薬へ」
発表者 株式会社TransChromosomics 代表取締役社長 押村 光雄 氏

(5) 開催結果

研究発表では、「地域特性を活かした次世代産業の創出」をテーマに、各地域が注力する先端技術分野の紹介があり、今回の各地域の研究者間の人的な交流により、今後の産業技術開発に係る地域間連携・共同研究推進に向けた機運が一層醸成され、3地域の産業技術の交流・連携のプラットフォームとしての本フォーラムの役割を確認することができた。



<研究発表の様子>



<集合写真>

2 北東アジア産業技術フォーラム開催経緯について

平成18年の地方政府サミットで先端科学技術交流が必要という合意に基づき、江原道側から、日本、中国の3カ国による産業技術に関する交流の提案がなされ、平成20年10月に江原道で開催された第1回北東アジア産業技術フォーラムにおいて、鳥取県と江原道及び吉林省相互間の産業技術発展に寄与できる共同研究開発活動の協力と機械の増進を目指した『産業技術交流協力協定書』を鳥取県商工労働部長、江原道産業経済局長、吉林省科学技術庁長の3者により締結した。

※次回(第13回)は江原特別自治道での開催を予定。

経済対策等に係る商工団体・金融機関等との情報連絡会議の開催結果について

令和5年11月30日
企業支援課

エネルギー・原材料価格等の高騰等厳しい経営環境が続く中、国・県の総合経済対策や県内事業者の現状を踏まえた今後の対策等について情報共有・意見交換を行うため、関係団体等との情報連絡会議を開催しました。

本会議でいただいた意見等を、今後の施策検討に活かしていきます。

1 日時 令和5年11月24日（金）午後2時30分から3時15分まで

2 場所 県庁特別会議室 ※対面とオンラインを組み合わせた形式で開催

3 出席者

〔商工団体〕鳥取県商工会議所連合会、鳥取県商工会連合会、鳥取県中小企業団体中央会
〔金融機関等〕(株)山陰合同銀行、(株)鳥取銀行、鳥取県信用金庫協会、鳥取県信用保証協会
〔県関係〕知事、商工労働部

4 議事 国・県の総合経済対策、資金繰りを中心とした県内事業者支援のあり方について

5 出席者からの主な意見

(1) 国・県の総合経済対策について

- ・補助事業はありがたいが、まず自己資金の準備が必要。利益が圧迫される中、厳しい面もある。
- ・補助金は手厚いが、知らない事業者もあったので、PRをさらに行うべき。

(2) 県内事業者の業況等について

- ・コロナが明け、ビジネスチャンスと考える事業者はでてきているが、人手不足。
- ・価格転嫁ができつつあるが、まだ不十分。

(3) 資金繰り対策について

- ・他県より恵まれた環境にあるが、物価高が続く中、ゼロゼロ融資の返済はこれからの大きな課題。
- ・ゼロゼロ融資の次の返済ピークが令和7年度だが、いまだ資金繰りが厳しい事業者もあり、既往債務とあわせて借換えできる制度が望まれる。
- ・期日一括返済型資金について、より利用しやすくなるような見直しがあるとよい。

<参考>

○国の総合経済対策（産業・雇用関係）

- ・燃料油価格激変緩和対策事業（ガソリン等の小売価格急騰抑制による家計・企業等の負担軽減）
- ・中小企業省力化投資補助事業（人手不足に悩む中小企業等が行う省力化投資への支援）
- ・業務改善助成金（事業場内で最低賃金の引上げを図る事業者の生産性向上に向けた取組支援） など

○鳥取県総合経済対策（事業者向け支援）

- ・資金繰り支援（発動中のエネルギー・原材料価格高騰対策に係る資金の受付期間延長）
- ・物価高騰に立ち向かう経営力向上・賃上げ事業者支援補助金
（賃金引上げを行いつつ生産性向上、効率化、従業員の能力向上を図る投資・育成等に係る支援）
- ・鳥取県産業未来共創事業（補助金採択枠の増、基金積増しによる事業者の持続的発展支援） など

「鳥取県雇用人材局メールサービス」に係る個人情報の流出について

令和5年11月30日
雇用人材局雇用・働き方政策課

当課が県メーリングリストシステムを利用して雇用人材局の事業情報を発信するために運用している「雇用人材局メールサービス」（以下「メールサービス」という。詳細は参考のとおり。）において、4名の個人情報がメールサービスの登録者（310件）に流出しました。

事案判明後は直ちに当該4名に電話で今回の経緯の説明と謝罪を行い、メールサービスを一旦停止しました。今後、同様の事案が起きないよう再発防止策を講じて、個人情報の適切な管理に努めていきます。

1 判明した日時

- （事案1）令和5年11月15日（水）午後0時37分頃
- （事案2）令和5年11月15日（水）午後1時17分頃

2 事案の概要

（事案1）

令和5年11月15日（水）午後0時7分頃、メールサービスに関するA氏からの問合せのメールに対して雇用・働き方政策課がメールで返信する際に、個人情報が含まれていた問合せメールの履歴（内容）の引用を残したまま、誤ってメールサービス投稿用メールアドレスを宛先欄に含めて送信した。このため、メールサービス登録者全員に個人情報を含むメールが配信された。（メールサービス登録者から電話で誤送信の指摘を受け事実を認識したもの）

（事案2）

令和5年11月15日（水）午後1時17分頃、メールサービス登録者B氏が事案1で発生した県の誤送信を指摘するためメールサービス投稿用メールアドレスを宛先としてメールを送信し、メールサービス登録者全員にB氏の個人情報を含むメールが誤って配信された。

3 発生原因

（事案1）問合せメールの宛先にメールサービス投稿用メールアドレスが含まれていることに気づかず、そのまま返信してしまったことによるもの。

※問合せメールの宛先が課の代表メールアドレス、メールサービス投稿用メールアドレス、問合せ関係者2名のメールアドレスとなっており、この全員に返信する形でメールを送信してしまったことにより、メールサービス投稿用メールアドレスに対して誤送信した。

（事案2）メールサービス投稿用メールアドレスに対して、メールサービス登録者の誰もが投稿することができるシステムであることによるもの。併せて、メールサービス登録者に対し登録者全員が相互に送受信することが可能なシステムであることについて、当課からの周知が不足していたことによるもの。

4 流出した情報等（事案1・2合計）

- ・個人の勤務先、職、氏名及び電子メールアドレス 2名分
- ・個人の勤務先、氏名及び電子メールアドレス 2名分

5 具体的な被害報告

情報流出に係る具体的な被害の報告は受けていないが、B氏に対しては複数のメールサービス登録者から問合せ（送付先が違うのではないかと）が寄せられた。

6 対応状況

- ・個人情報が流出した4名に対して、県から電話で経緯及び状況を説明すると共に謝罪した。
- ・メールサービス登録者に対しては、今回の事案に係るお詫びと個人情報を含むメールを削除いただくこと及び削除した旨の連絡をいただくよう所属メールから依頼した。

7 再発防止策

- ・当該メールサービスを停止し、県メーリングリストシステムの安全策が構築・検証されるまで当該システムを使用しないこととする。
- ・課の代表メールアドレスから庁外に対し送信するメールは、宛先及び内容を複数人の職員でダブルチェックすることを徹底する。

【参考】雇用人材局メールサービス

- ・「県メーリングリストシステム」とは、県デジタル改革推進課が所管している、複数の宛先に同時に電子メールを送信する仕組みである。
- ・通常、電子メールを送信する際は、宛先欄に相手方のメールアドレスを入力してメールを送信するが、メーリングリストシステムでは、ある特定のメールアドレス（メールサービス投稿用メールアドレス）にメールを送信すると、そのメールは予めメーリングリストに登録されているメールアドレス全てに送信される。
- ・「雇用人材局メールサービス」は、県メーリングリストシステムを利用して、雇用人材局の企業向け補助金の募集や雇用施策に関するセミナー・イベントの開催等に関する情報を配信するもの。

第43回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）での受賞について

令和5年11月30日
雇用人材局雇用・働き方政策課

令和5年11月17日（金）～19日（日）に開催された第43回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）において、2名の受賞がありました。

製品パッキング競技で銀賞を受賞した山本 愛斗さん（ヤマト運輸（株）倉吉営業所）は、第41回大会の銅賞、前回第42回大会の銀賞に続いて3年連続の受賞です（全国大会連続出場は3回が上限）。

また、喫茶サービス競技の藤野 陽菜子さん（コメダ珈琲店鳥取立川店）は、初出場で努力賞受賞です。

<当日の競技の様子>

1 競技の結果

(1) 製品パッキング（競技参加者数：22名）

銀賞：山本 愛斗（やまもと まなと）さん

※商品を運ぶための梱包作業を想定し、箱や緩衝材の組立と梱包を行う競技。見栄えと決められた製品がセットされているかが審査のポイントとなる。

(2) 喫茶サービス（競技参加者数：43名）

努力賞：藤野 陽菜子（ふじの ひなこ）さん

※模擬喫茶店で、来店されたお客様に対して接客サービスを提供する競技。お客様の立場に立って正確かつスムーズに、またくつろいで過ごせるサービスの提供が重要となる。

山本さん



藤野さん



2 全国大会鳥取県選手団（計8名）

全国大会へは、6月に開催された鳥取大会の金賞受賞者が出場しました。

競技種目	選手名	全国大会出場回数	所属
製品パッキング	山本 愛斗	3回目（3回連続）	ヤマト運輸（株）倉吉営業所
喫茶サービス	藤野 陽菜子	初出場	コメダ珈琲店鳥取立川店
ワード・プロセッサ	村上 優	初出場 ※	（株）ジャパンディスプレイ鳥取工場
フラワーアレンジメント	松本 典子	初出場	（株）JR西日本あいウィル米子支店
ビルクリーニング	多久和 英嗣	初出場	琴の浦高等特別支援学校
オフィスアシスタント	小林 ひかり	3回目（3回連続）	（株）ジャパンディスプレイ鳥取工場
写真撮影	福田 孝二	初出場	鳥取県警察本部
パソコンデータ入力	灘 昭宏	3回目（3回連続） ※	（株）ジャパンディスプレイ鳥取工場

※これまでに他種目での出場実績もあります。

3 第43回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）概要

全国障害者技能競技大会（アビリンピック）は、障がい者（15歳以上）が日頃培った技能を競い合うことにより、一人ひとりの職業能力の向上を図るとともに、企業や一般の人々に障がい者への理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的として、毎年開催されています。

※「アビリンピック」とは、「アビリティ（能力）」と「オリンピック」を合わせたもの。

(1) 日程 令和5年11月17日（金）～19日（日）の3日間

(2) 開催場所 愛知県国際展示場（愛知県常滑市）

(3) 競技種目 25種目（上記2の8種目のほか、表計算、プログラミング、ホームページ、縫製等）

(4) 参加選手数 369人

4 第40回アビリンピック鳥取大会概要

(1) 開催日 令和5年6月29日（木）

(2) 開催場所 鳥取県立福祉人材研修センター（鳥取市伏野）

(3) 実施競技等 上記2の8種目を実施し、50名が出場しました。

技能関係表彰及び鳥取県技能祭の開催について

令和5年11月30日
雇用人材局産業人材課

厚生労働省が例年11月を「人材開発促進月間」、同月10日を「技能の日」とし、国及び都道府県において職業能力の開発・向上の促進及び技能振興の取組を強化しており、その一環として技能関係表彰及び鳥取県技能祭を開催しましたので報告します。

1 令和5年度技能関係表彰

技能職の地位向上を図り、技能振興・技能承継の推進を目的に国及び本県において優れた技能を有する者等を表彰している。

(1) 厚生労働大臣表彰

○卓越した技能者（現代の名工）厚生労働大臣表彰

卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を表彰

【氏名】川見 和嘉 氏（かわみ かずよし） 【職種】電気めっき工

【所属・役職】㈱アサヒメッキ（鳥取市）・技術部部长

<受賞理由>

- めっき処理の技能は卓越しており、その技能を活かして開発した工法は国内外から注目され、一部の工法は半導体部品の製造に活用されるなど技術革新に大きく貢献。
- 毒性の強い薬品に替えて、環境にやさしい薬品を使用したアルミニウムの表面処理方法「アルマイト工法」^{※1}を開発し国内特許を取得。半導体部品の製造工程で利用されるアルミ部品などに活用。
- ステンレス表面の酸化皮膜の厚さをムラなくコントロールすることで様々な色に発色させることができる、量産性や耐久性の高い「ステンレス化学発色処理技法」^{※2}を開発し、国内特許のほか、アメリカ、フランスなど4か国で国際特許を取得。ステンレスのデザイン性が向上し、ステンレスボトルなどで製品化。
- めっき講習会の講師を務め、社内外のめっき技能士の育成・指導のほか、近隣の金属・機械メーカーに対し実技指導や講演を積極的に行うなど、後進の育成にも尽力。



※11/24(金)県庁にて、川見氏から知事への受賞報告式を行いました。

※1 アルマイト工法・・・アルマイトはアルミニウムの代表的な表面処理方法で、アルミニウム陽極酸化皮膜の一般名称。陽極酸化は、対象となる材料の表面を陽極とし、主に強酸中で電解によりバルブ金属の表面を酸化させる処理

※2 ステンレス化学発色処理技法・・・ステンレス表面はクロムを主成分とした透明な酸化皮膜で覆われており、この酸化皮膜の厚さを1/100μm（1/10万mm）単位で変化させると、光の干渉現象によりステンレス表面はシャボン玉のような美しい色彩を放つ。この光の干渉現象を利用した発色処理の技法。

○職業能力開発関係厚生労働大臣表彰

技能振興、技能検定に永年にわたり多大な貢献があった団体・個人を表彰

【技能振興】㈱アサヒメッキ

【技能検定】気高電機㈱、鳥取県環境整備事業協同組合、大西義信 氏（(有)大和工業所）

(2) 鳥取県知事表彰

表彰・認定名	表彰の概要	氏名（職種・事業所）
優れた技能者	県内屈指の優れた技能を有する方を表彰するもの	高眞 仁司 氏（広告美術） 武部 貴紘 氏（日本料理） 森田 秋彦 氏（建具）
鳥取県高度熟練技能者認定・事業所認定	本県製造業の基盤となる職種において優れた技能・技術を有し、技能者育成に意欲のある方を認定するもの。併せて、所属する事業所を「鳥取県高度熟練技能者認定事業所」に認定するもの	西尾 秀志 氏（紳士服製造・グッドヒル㈱） 野田 隆一 氏（機械保全・FDK㈱） 古谷 雅弘 氏（電気機器組立・大鳥機工㈱） 前田 真也 氏（機械保全・大同端子製造㈱） 三好 馨 氏（機械保全・グリコマニユファクチャリングジャパン㈱ 鳥取工場） 吉田 英樹 氏（機械加工・㈱テクノメタル）

その他、技能検定事業関係功労者（3名）・協力事業所（1事業所）、技能検定成績優秀者（12名）を表彰

2 鳥取県技能祭の開催

次世代を担う子どもたちに将来の職業としてもものづくりの世界を目指す動機付けとすることを目的に技能職の体験イベントを開催（コロナ禍の影響により令和元年度以来4年振りの開催）

- (1) 日時 令和5年10月22日（日）午前9時から午後3時まで
- (2) 場所 ポリテクセンター鳥取（鳥取市若葉台南7丁目1番11号）
- (3) 主催 鳥取県技能士会連合会（県は開催経費を補助）
- (4) 参加団体 19技能士会・団体、県立産業人材育成センター
- (5) 参加者 約2,000人
- (6) 主な体験コーナー

- ・マグロ解体ショー（日本調理技能士会）
- ・小障子製作体験（建具技能士会）
- ・やきとり台製作、3Dゴーグルバーチャル溶接体験
（鉄構工業会技能士会・青年部会）
- ・銅板ヘラだし体験（板金工業組合）
- ・デジタル時計製作体験（冷凍空調技能士会）
- ・生徒が製作したゲーム機体験、作品展示（産業人材育成センター）

(7) 参加団体等の声

（参加団体）

- ・子どもたちをターゲットにした催しは業界の次世代のためにも非常に良い機会だった。
- ・全体的に大盛況だった。皆で協力し合い大成功で終わることが出来た。
- ・VR（仮想現実）の得点ゲームを活用することで、怖い・危ないイメージの溶接が楽しいと感じてもらえた。

（古川技能士会連合会長）

4年ぶりの開催で、来場者の心配をしたが、天候にも恵まれ多くの子ども達が来てくれたことが良かった。

ものづくり体験教室の参加希望者が予想以上に多く、出来ない子ども達も多くあり、今後の対応を考えていきたい。

会場設営・撤収作業において、多くの会員協力が得られ、大変感謝している。

今回は限られた予算の中で、各技能士会が来場者へのアピールを色々工夫し、手作り感満載の大変素晴らしい鳥取県技能祭だった。

(8) その他

同会場で、令和5年度「優れた技能者」及び「技能検定事業功労者・協力事業所・技能検定成績優秀者」の鳥取県知事表彰、「鳥取県高度熟練技能者（とっとりマイスター）」の知事認定証・事業所証の授与式及び鳥取県職業能力開発協会会長表彰授与式を実施



小障子製作体験



溶接体験



生徒が製作したゲーム機体験

技能人材の不足は全国的な課題であり、本県においても技能士は急速に減少している。今後も引き続き、技能人材の確保のために技能の普及啓発や魅力発信に取り組んでいく。

令和5年度鳥取県スーパー工業士認定証授与式の開催結果について

令和5年11月30日
雇用人材局産業人材課
高等学校課

AI等の先進技術を活用できる次世代ものづくり人材である「鳥取県スーパー工業士」の初の認定(第1期生)及び認定証授与式を開催しましたので報告します。

1 令和5年度鳥取県スーパー工業士認定証授与式の概要

- (1) 開催日時: 令和5年10月26日(木)14時15分～14時35分
- (2) 会場: 鳥取県立図書館大研修室
- (3) 出席者: スーパー工業士認定者 18名
(鳥取工業高校3年生11名、米子工業高校3年生7名)
各学校関係者
- (4) 次第: 認定証授与、知事挨拶
認定代表者からの今後の抱負、記念撮影
- (5) 認定日: 令和5年8月24日



認定証を胸に平井知事と記念撮影

2 鳥取県スーパー工業士制度の概要

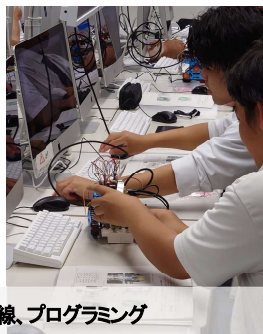
- (1) 目的 ものづくり企業が求める、生産現場でAIを活用できる次世代人材を育成するため、県独自の認定プログラムで学んだ工業高校の生徒を県が「スーパー工業士」として認定することで、認定者の就職や進学などのキャリア形成を支援する。
- (2) 認定要件 (ア) 認定プログラムを修了すること (イ) 高校の成績が優秀であること
- (3) 認定時期 3年生の夏
- (4) 認定プログラム

実施時期	認定プログラム	学習内容
2年生 (下期)	システムデザイン研修 (月1回/オンライン開催)	AIの基礎のほか、システムの基本的な構成要素、システム設計を行うための視点・考え方などを学び、AIツールを活用した画像判別システムを試作した。
	データサイエンス研修 (オンライン動画学習 Udemy の動画を随時受講)	「社会におけるデータ・AI利活用」、「データリテラシー」 「データ・AI利活用における留意事項」を学習した。 (Udemyの高校生の活用は全国初)
3年生 (上期)	【鳥取大学による総括講座】 AI・ロボット演習	システムデザインやデータサイエンス研修での学びを活かした演習として、移動ロボットを活用し、障害物をAIで画像判別する衝突回避アルゴリズムを構築した。

(AI・ロボット演習(鳥取大学工学部)の様子)
マイコン、モータ、カメラを積んだ簡易ロボットに、AIに画像判別させて障害物を回避するプログラム(各自考案)を実装し、走行実験。



ロボットへの配線、プログラミング



ロボット走行実験、プレゼン

(5) 認定者への支援措置

- ・スーパー工業士キャリア支援補助金: デジタル関連の資格取得等の費用を最大15万円(10/10)支援
- ・スーパー工業士認定者の進学、就職への活用

(6) 今後の取組

第2期生(県内5校/14名)のプログラム受講開始(令和5年10月から)